

平成30年度 城山地区まちづくり懇談会結果報告

- 1 日 時 平成30年10月2日(火)午後7時から午後8時50分まで
- 2 場 所 城山公民館大会議室
- 3 市側出席者 梅沢副市長、中島緑区長、小林教育局長、菅谷こども・若者未来局次長、鈴木緑区副区長、齋藤市民局長、樋口市民局次長
- 4 出席委員等 24人
- 5 傍聴者 3人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	子どもたちの豊かな心と健やかな成長を育むまちづくりについて
概要	<p>城山地区は、自然や伝統行事も豊富で、子どもたちが豊かな心で健やかに成長していくための有形・無形の地域資源に恵まれた地区である。</p> <p>しかしながら、そうした地域資源が十分に生かされていないこと、また、個人の考え方の多様化や地域社会の連帯感が希薄化していることなどから、地域社会の教育力も低下しつつある。</p> <p>そこで、子どもたちを取り巻く環境の変化についての認識や市の今後の施策方針などを伺いながら、子どもたちの豊かな心と健やかな成長を育むまちづくりについて懇談したい。</p>
課題事項1	子どもたちの遊び場の充実について
概要	<p>子どもたちが豊かな心で健やかに成長していくためには、触れる・体験するといった感覚を通して情操を養っていくことが重要である。</p> <p>城山地区は、湖や川、森林や田畑などの豊富な自然に恵まれているものの、子どもたちが自然に触れ、体験するための環境づくりが不十分で、この貴重な地域資源が生かされていないと感じている。</p> <p>このため、自然を利用した「わんぱく広場」や「冒険広場」のような、子供たちが仲間と自由に楽しく遊ぶことができるような場を整える必要がある。</p> <p>そこで、市内や他市等の事例をご紹介いただき、また、市の施策方針などを伺いながら、自然の中で子どもたちが安心して伸び伸びと遊ぶことができる場の充実について懇談したい。</p>
市の取組等の説明	<p>本市では、子どもの居場所の一つとして、禁止事項を極力少なくして、自然の中で自由な遊びができる「冒険遊び場」事業を行っている。</p> <p>冒険遊び場の運営は、プレイリーダーと呼ばれる大人や地域のボランティア等により支えられている。</p> <p>本市としては、冒険遊び場事業を様々な地域に展開したいと考えており、昨年は城山保健福祉センターの裏山で、冒険遊び場事業を出張開催した。常設で運営する場合は、実施場所や人材の確保について課題があるため、運営団体や利用者からの意見を伺いながら、事業の拡充に向け検討を進めていく。</p> <p>(こども・若者未来局)</p>

主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	<p>冒険遊び場の概要をもう少し具体的に説明していただきたい。利用実績（開園日数・時間・利用者数）や運営状況（ランニングコスト・運営にかかわる人材など）について伺いたい。</p> <p>プレイリーダーになるための資格の有無や育成方法、市とプレイリーダーの関係などについて伺いたい。</p>
回答	<p>冒険遊び場とは、自然の中で子どもが自由に遊べる場所である。昨今、都市化が進み、木登りや泥遊びといった経験ができる機会が少なくなる中、可能な限り制約をなくして、子どもが自分で考え、身近な自然の中で自由に遊ぶことができる場所や取組である。</p> <p>冒険遊び場の運営に当たっては、プレイリーダーと呼ばれるスタッフが子どもの興味や関心を引き出すとともに、子どもたちの遊びを見守っている。プレイリーダーとしての公的な資格はないが、遊びの知識はもちろんのこと、倒れそうな木や枝、地中に埋まっているガラスなどをはじめ、毒のある昆虫や動物、かぶれたりする漆など遊びに危険なものを取り除くというような安全の確保を図っている。また、事故発生時の応急救護の知識、そして、発達障害や知的障害のお子様も遊びに来ることがあると思うので、専門的な知識も持ち合わせている必要がある。</p> <p>市としては、平成27年度から、銀河の森プレイパークを運営する団体にプレイリーダー養成講座を委託しており、その修了者の多くが本市の冒険遊び場の運営に携わっていただいている。</p> <p>利用実績、運営状況であるが、現在、淵野辺公園横のキャンプ淵野辺留保地で開催している銀河の森プレイパークについては、毎週、日、月、水の週3日、午前10時から午後5時まで開園しており、利用者数は1日平均約75名となっている。また、運営に携わる人材については、一般的な開園時にはプレイリーダー2名、スタッフ1名が常駐している。</p> <p>運営にかかる費用としては、スタッフへの謝礼のほか、工作用の消耗品、傷害保険などの経費が挙げられるが、運営方法等により具体的な費用は異なるものとする。（こども・若者未来局）</p>
質問要旨 (提案者)	<p>身近に存在する川などの水辺空間の活用について伺いたい。城山地区には相模川、境川、その支流である小松川、穴川などがあるが、そのような水辺空間を活用した遊び場づくりについての考えがあれば伺う。</p>
回答	<p>川遊びについては多くの危険が伴い、命にかかわる事故なども数多くテレビで報道されていることから、冒険遊び場として実施している他市の事例もあまり多くないと認識している。水辺の空間の活用に当たっては、安全な場所の選択やスタッフの専門知識の向上、河川管理者の理解や協力など、運営に必要な条件を整理した上で実施することが必要である。（こども・若者未来局）</p>
質問要旨	<p>子どもたちを自然の中で遊ばせるのは非常に大事であるが、事故等の際の責任の所在の問題もあることから、子どもの父兄には、どのような説明をしているのか伺う。</p>

<p>回答</p>	<p>冒険遊び場については、危険が伴うこともあると思うが、まず事故の際の責任は自己責任という説明をしている。その中で、加入している保険の中で対応できるところは対応している。</p> <p>また、子どもたちが安全に遊ぶことができるように、プレイリーダーがついている。プレイリーダーについては、養成講習会、研修会があり、その研修会の中である程度の知識、救急の知識や遊ばせ方、子どもの自主性をどう尊重するかといったことも含めて、実地研修も含めて研修を行っている。今までプレイリーダーと呼ばれる方については17名を養成した。今年度についても6名の養成中である。（こども・若者未来局）</p>
<p>質問要旨</p>	<p>事故が起きた際、プレイリーダーの責任はどうなるのか。</p>
<p>回答</p>	<p>通常、プレイリーダーに対して責任は及ばないものとする。</p> <p>（こども・若者未来局）</p>
<p>質問要旨</p>	<p>これから冒険遊び場などの充実をしていくという話があったが、旧津久井地域でこのような広場を整備する予定はあるのか。</p>
<p>回答</p>	<p>津久井地区根小屋の土沢森遊びの会では、木を使ってロープを張り、ブランコをつくって遊ばせるなど、実際に取組を行っている。</p> <p>冒険遊び場などについては、最適な場所を見つけて実施していきたいと考えており、城山地区については、過去に実績のある、保健福祉センターの裏山での実施について、また機会があれば行いたいと考える。（こども・若者未来局）</p>

課題事項 2	子どもたちの交流機会の充実について
概 要	<p>子どもたちは、異なる世代の様々な人との触れ合いを通じた様々な体験を積み重ねることにより、その自主性、創造性、社会性を育てていくことが重要である。</p> <p>しかしながら、今日の子供たちは様々な人々との交流が不足し、人間関係や集団のルールなどの様々な能力が育まれなくなっていると感じている。</p> <p>このため、子どもたちが異なる世代の様々な人と多様な交流ができるような環境を整え、その自主性・創造性・社会性を涵養していく必要がある。</p> <p>そこで、子どもたちの交流機会の現状や市の施策方針などを伺いながら、子どもたちの多様な交流機会の充実に向けて、行政、地域、家庭それぞれがどのような役割を果たしていくことが必要かについて懇談したい。</p>
市の取組等の説明	<p>子どもたちの生きる力を育むためには、学校での学習だけでなく、地域社会で大人や異なる年齢の子どもと交流し、さまざまな生活、社会、自然体験などを積み重ねることが大切である。</p> <p>また、家庭においては、子どもが安心して安全に過ごせる場所であることはもちろん、生活習慣や社会性、自立心などを身につけていただくことに期待している。</p> <p>地域では、その地域に愛着を持ち、その中で子どもたちを育てていく環境づくりが重要である。このような中、本市ではさまざまな経験や他世代との交流に向け、各地区の子ども会などの諸団体を通じ青少年健全育成を推進するとともに、各地区で取組が広がっている子ども食堂や無料学習の支援など、子どもの居場所づくりについて活動しやすい環境づくりを進めている。</p> <p>また、家庭、学校、地域社会が一体となって子どもたちに自然体験や社会体験などを行う場や機会を増やし、自ら学び、考える力、豊かな心やたくましさなどを育てるため、地域社会が実施する青少年健全育成活動に対し地域子どもふれあい事業補助金を支出し支援している。</p> <p>今後も地域の皆様と連携し、子どもたちの多様な交流機会の充実に向けた取組を進めてまいりたいと考えているので、ご理解、ご協力をお願いしたい。</p> <p>(こども・若者未来局)</p> <p>城山公民館では公民館まつりの中に工作コーナーや昔の遊びコーナー等を設け、城山公民館青少年部員を中心とする城山地区シニアクラブ連合会等の地域団体の皆様に運営面での協力をいただいている。</p> <p>「城山もみじまつり」における「子どもの広場」では、城山公民館青少年部、青少年指導員城山地区協議会等の皆様からご協力をいただき、工作体験や小動物とのふれあい体験を実施している。</p> <p>今後もこのような活動を通じ、子どもたちの豊かな心と健やかな成長に向けて取組を進めていく。(教育局)</p>

主な質疑等	
質問要旨 (提案者)	異世代交流については、子どもたちが主体となるような工夫や人材を育成していくこと、一過性のイベントから日常生活の中での交流づくりへと発展させていく必要があると思うが、そのためのアイデアがあれば伺う。
回答	<p>子ども会やジュニアリーダーなどで活動している子どもたちは、自治会の活動や公民館事業に参加している方が多く、青少年指導員をはじめ地域の大人との交流が育まれているものとする。家庭、学校のほかに、地域が子どもの居場所となり、地域全体で見守ることは、子どもの育ちや地域のつながりにとって大変重要であると認識している。今後とも、地域のイベントに子どもが継続して参加することができるよう、関係団体と連携しながら取組を進めてまいりたい。</p> <p>アイデアについて、例えば城山のシニアクラブの方たちを中心とした男の料理教室において、子どもや親を誘い、子ども食堂の取組などを開催してみたいかかか考える。</p> <p>関連して、「男の腕まくり」という料理グループが、小学生や母親などを招いておはぎづくりを行った事例がある。そういう取組も各地で広がっているので、ぜひ城山にもこういった活動が広まるといいと思う。</p> <p>市としては、そういった取組を始めたいという方々に対し、市の社会福祉協議会に委託しセミナーの開催も行っている。相談については市や地区社会福祉協議会でも随時行っている。(こども・若者未来局)</p>
質問要旨 (提案者)	子どもの育成については、大人の考えで議論されがちなどころがあると感じている。こうした取組を進めるに当たって、アイデアや企画の段階を含め、子どもたちの思いや考えを取り入れていく必要があるのではないかと。
回答	<p>子どもの育ちとは、自分で考え、実行するといった経験が大変重要であり、大人はそれらの行動のよき理解者であることが必要であるとする。子ども会など地域での活動や学校の地域交流などで子どもたちの意見を聞く仕組みを取り入れることは大変重要であるため、イベントを行った際に、終了時にアンケートなどを行い、それを次回に生かすなど、年間事業計画の検討に当たり、子どもが参画できる機会を設けるなどの工夫が重要である。</p> <p>また、子どもが参画するという点では、城山の夏まつりが良い例となるように思う。山車に乗ったお囃子をする子どもたちの生き生きとした姿から、伝統が継承されていると感じた。この様な地域の良さを引き継いでいきたいと思う。(こども・若者未来局)</p>
質問要旨	子育ての際、地域との交流が少なく孤立してる人も少なくないのではと感じている。例えば公民館や保健福祉センターで何か講座がある際に、掲示するチラシの内容の工夫次第で、「いろいろな人と交流してみようか」と思う人もいると思う。子育てしやすいと思われる政策を期待したい。
回答	<p>子育ての環境づくりについて、サロンでは、多いときには50～60人が集い、同じ悩みを持つお母さん同士が相談し合う場などを設けている。</p> <p>城山地区においても、サロンは月1回程度開催されており、子どもも連れて、お母さんが悩みをお話できる場は非常に大切だと考えている。(こども・若者未来局)</p>

質問要旨	<p>中には、サロンなどの場に行けない人もいると考える。横浜市では「出張助産院」を行っており、相模原市民も利用されていると伺っている。川崎市でもそのような取組を始める予定とのことであり、相模原市でも、是非子どもを産んで育てやすい環境を整える施策を期待している。</p>
回答	<p>サロンなどに行く気になれないお母さんについては、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援ということで、保健師が手厚く訪問したりしている。本市ではこんにち赤ちゃん事業というものがあり、4カ月健診の前までに保健師が必ず自宅に伺って、お子さんの様子を1時間程伺っており、その中でお母さんの状況などに応じて引き続き支援を行ったりしている。お会いできない子どもについては、その後も追跡調査をし、子どもに虐待やネグレクトといったことがないようにきちんと対策をしている。</p> <p>お母さんの精神面への支援がまだ足りないということであれば、またご意見をいただきたい。</p> <p>(こども・若者未来局)</p>
質問要旨	<p>大人の目線ではなく、子どもの目線でこの地域を見ていく取組が重要と考え、年1回子ども新聞を発行し、子どもたちが地域のお祭りや様々な場面で印象に残った内容などを掲載している。他地区で同様な事例や先進的な取組があれば伺う。</p>
回答	<p>子ども会では新聞コンクールを行っている。また、他地区では地域子どもふれあい事業を活用し、大沢地区では、昔遊びとか料理教室、水鉄砲遊び、田名地区は相模川が近いので河川清掃ボランティアやアユ釣り大会、相模湖では浴衣着付け教室とか茶道教室、サイエンス実験室という取組もされている。</p> <p>(こども・若者未来局)</p>
質問要旨	<p>子どもが中々行事に参加しないという課題がある。学習塾へ通う子どもが増え、毎日遅く帰宅するような状態で、お祭りでも何でも行事に子どもを連れ出すことが非常に大変であるように思う。そういう点を課題にし、もう少し教育に関して行政も力を入れていただきたい。</p>
回答	<p>塾に行くか地域に出るかは考え方によるかと思うが、やはり学力ばかりではなく、様々な課題を解決する力は、地域の中での活動、大人を見て学ぶことがあるので、基礎的な学力にあわせ、様々な生きる力を身につける教育に取組んでいきたい。(教育局)</p>
質問要旨	<p>旧津久井地域には、自然が多く、そういう環境の中で勉強したいという子どもたちがいたら、受け入れる手段があっても良いのではないかと。</p> <p>また、南区など他地区の学校で、林間学校として旧津久井の環境を利用するなど、他地区間の交流なども検討いただきたい。</p>
回答	<p>合併してより一層そういった交流が行いやすいと思うので、ぜひ検討させていただきたい。(教育局)</p>